

《 上人ヶ浜地区の整備目標 》

自然環境とふれあう海辺空間

《 上人ヶ浜地区の整備方針 》

- ・異常気象に対して安全性の高い海岸とする。
- ・地域住民や観光客の安全を確保するため、耐震性の高い海岸とする。
- ・残された自然と調和した景観を有する海岸とする。
- ・残された豊かな自然環境や生態系を守り、自然にやさしい海岸とする。
- ・水産協調に配慮した地域振興に貢献できる海岸とする。
- ・豊かな自然環境とふれあう場所として、気軽に散策や休息ができる海岸とする。

平成14年度の構想段階に定めた整備目標と整備方針

《 どのような海岸にしたいか 》

- ・唯一の自然の磯浜を大事にした海岸
- ・住民が海に親しめる海岸
- ・昔のように子供達が遊べる海岸
- ・防災だけでなく観光にも寄与する海岸
- ・漁業が出来る海岸
- ・動植物が豊富に生息する海岸

《 どのように利用したいか 》

- ・海岸沿いを歩きたい（上人ヶ浜公園の遊歩道とつなぐ）
- ・磯場で自然観察など子供が遊べる場
- ・海岸に安全に歩いていけるようにしてほしい
- ・護岸の上は歩けないようにしてほしい
- ・背後が宿泊施設や露天風呂の場合、前面はあまり立ち入らないで欲しい

平成20年度のワークショップやヒアリングでの主なご意見

■消波ブロックを残す場合



【沖側潜堤の整備+護岸改良】の整備イメージ

■消波ブロックを撤去する場合



【沖側潜堤の整備+護岸の嵩上げ】の整備イメージ

検討の経緯（事務局からの報告）について

事務局より、上人ヶ浜の検討経緯を説明しました。平成14年度に住民参加型計画手法により、検討会とワークショップを開催し、地域の方との合意形成を図りつつ、整備目標と整備方針を策定しました。

昨年度からは設計段階に入り、検討会で専門的な検討を行いつつ、ワークショップやヒアリングにより現在の海岸の利用状況を整理し、今後のあり方や利用方法を中心にご意見を伺いました。今後のあり方については、自然の磯をはじめとした環境や生態系を大事にすべきとの意見が多く出されました。また、利用については、海岸沿いを歩けるようにしてほしいこと、背後施設の利用に配慮してほしいこと、などの意見がありました。また、整備の必要性を問うご意見もいただきました。

今年度は、これらの検討経緯を踏まえ、海底の深浅測量を行い、最新の数値解析モデルを用いて、より詳細な検討を進めます。これらのワークショップでいただいたご意見は、検討会に報告し、計画案の検討に反映していきます。

現地見学における計画案の説明について

現地見学は、磯場がよく見える干潮時を利用し円形テラスで実施しました。現在検討している防護施設についての計画案を示し、施設の位置や高さ、大きさなどのイメージを確認していただきました。

護岸嵩上げ案の場合について、現地護岸天端から高さを示し、高さによって陸側から海が見えにくくなることを確認しました。また、岸側の潜堤案については、配置等を工夫し、自然の磯との調和を図ることが重要であることを確認しました。

※下図は防護施設を整備した場合の干潮時のイメージです。整備する防護施設を現すピンクの部分の位置や高さ、形状等は確定したものではありません。今後、詳細な技術的データを踏まえ、環境や景観に配慮したかたちで、具体的な検討を行います。



【沖側潜堤の整備+岸側半潜堤の整備】の整備イメージ

護岸の嵩上げ及び岸側半潜堤の整備の場合のイメージ（干潮時）

ワークショップでの主なご意見

現地見学、全体討議及びアンケートのご意見と、今後の検討の方向性として確認した内容は以下の通りです。

＜ご意見の主な内容＞

- ・自然の磯や生態系を損なうような整備方法は避けるべき。
- ・被災経験がないことや費用対効果の観点から、今以上の防護機能を有する整備が必要なのか疑問である。特に円形テラス部は背後が民有地ではないため、防護施設の整備以外の方法で対応が考えられないか。
- ・半潜堤は、環境、景観に配慮し周囲と違和感がないよう配置、形状、材料等を工夫してほしい。
- ・潜堤や護岸の嵩上げは景観に影響するので、消波構造の護岸など他の防護方法も検討して欲しい。

＜今後の検討の方向性＞

- ・沖側潜堤は景観に問題ないこともあり、整備案の対象として考えたい。
- ・沖側潜堤のみでは不足する防護機能を、護岸の嵩上げ、構造形式の検討、岸側の半潜堤、護岸前面消波ブロックの有無などについて、環境、景観、利用等に配慮しつつ検討する。

護岸部の整備検討について

○防護施設の補修（消波ブロック残置）のみとする意見

・今の状態で防護施設のいたんでいるところを直すという程度でいいのではないか。

・波を消す防護効果について、消波ブロックと潜堤のどちらが有効か技術的に証明出来ているのか。消波ブロックのほうが、安くて防護効果も高いのではないか。

○消波ブロックの撤去を求める意見

・消波ブロックは景観を損ねるため、撤去したほうがいい。

○護岸の嵩上げについて

・消波ブロックを撤去し、護岸嵩上げと潜堤（沖側）で別府の海岸を守るべき。

・護岸の嵩上げは景観を損ねるため、嵩上げしないで済むような護岸構造を検討してほしい。

半潜堤の整備について

・半潜堤が波打ち際で露出して見えるのは景観上不自然な印象が強いため、もう少し沖合に入れて目に触れないように配置し、自然に見えるように工夫してほしい。

・円形テラスのところは、灯籠のある岩より沖側に入れるようにしてほしい。

・潮通しが確保されるような平面配置を工夫してほしい。

整備による生態系への影響について

○生態系への影響を危惧し、整備することを懸念する意見

・うみたまごの星野和夫学芸員を講師に迎える1回自然観察会を開催している。上人ヶ浜には、60～70種の生物が確認されている。磯を大事にしなければいけない。

・上人ヶ浜は、自然の磯浜を生かし大事にするという観点が重要である。潜堤周辺に新たな生態系は出来るかもしれないが、磯側の既存の生態系を壊す可能性があるため、避けたほうがいい。

情報コーナー 7月19日に別府市海岸海浜清掃奉仕活動が行われました

別府市の呼びかけで、午前8時から1時間スパビーチ、上人ヶ浜海岸、関の江海水浴場で海岸清掃が行われました。3箇所ですべて2,265人が参加し、上人ヶ浜でも多くの方の参加により沢山のゴミを回収することが出来ました。



上人ヶ浜海岸での海岸清掃の様子

○生態系への影響調査を求める意見

・潜堤や半潜堤をつくることで波の状況がどのように変わるのか、それによって既存の生態系への影響がどの程度起こるのかが心配である。調査をしてほしい。

整備の必要性について

○整備の必要性を問う意見

・防災面の安全性について、今以上に必要か疑問である。

・費用対効果が大事であり、どういった費用をかけて、どれだけの効果を得ようとしているのかということが問題だと思う。

・予算のかけ方として、この整備にあまり緊急性を感じない。この事業だけでなく税金の使い方全体から見て有意義に使って欲しい。

○円形テラス部の扱いについて

・円形テラスの背後は民有地でないため、防護施設を整備するというのではなく、背後の施設（婦人会館、老人憩いの家）で防災の工夫をすることが出来ないのか。

○整備の促進を求める意見

・今後、温暖化など地球環境の変化を考えると何が起こるか分からないので、この際今現在出来ることを精一杯検討してやったら良いのではないかと思います。

・多少時間がかかっても、防災、景観、自然環境が全体的にうまくいこう、徹底してやっていくべきである。

その他、ワークショップの進め方

・先に検討を進めている北浜地区での検討内容や進め方を伝えてもらいたい。上人ヶ浜の検討でもこれらを参考にして進めていくと良いのではないかと。

・ワークショップは昼間開催だと参加しやすい。

・一般市民の方々がもっと参加出来るような周知が必要ではないか。